



徘徊高齢者への取組～いなくなったときに備えて～

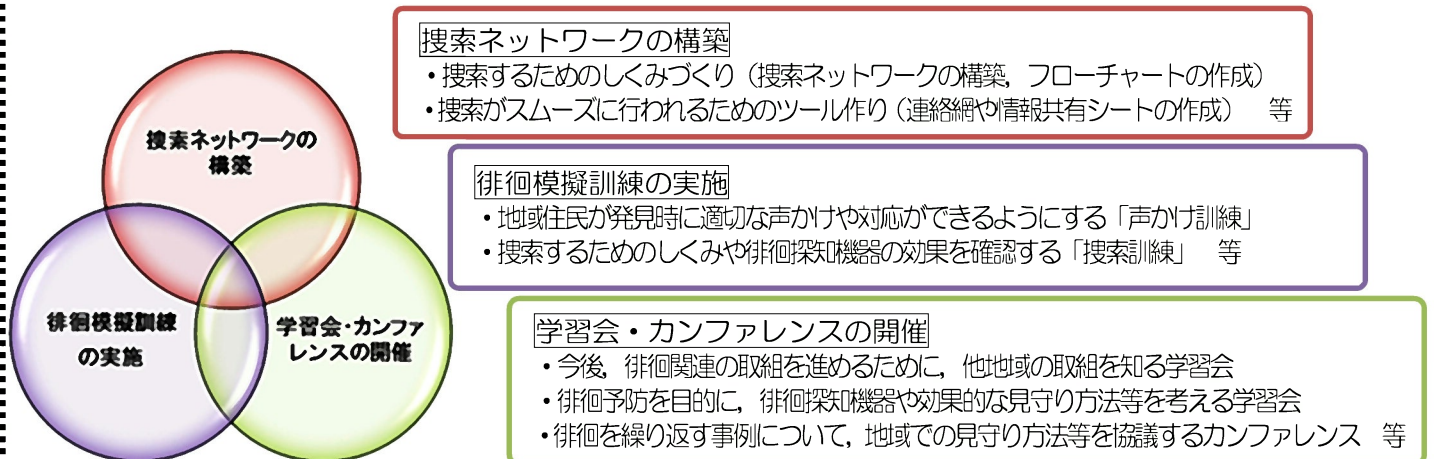
発行：京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課 電話：075（251）1106 平成27年2月

京都府内で昨年（平成 26 年）1 月～6 月の間に警察に行方不明者届が提出された総数は 981 人。この数は昨年と比べて 1 割程度少なくなっているにもかかわらず、その中で認知症の人が占める数や割合は増えており、発見されないままという人もいます。また、警察に保護された認知症の人は昨年の 1 月～6 月で 1,061 人にのぼり、一昨年の同じ時期と比べると 16% も増えています。

認知症の人の徘徊が増えていることに関して、テレビや新聞等で報道されることが増えました。また先ごろ発表された「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の中にも、行方不明者の早期発見・保護を含め、地域での見守り体制の整備についての項目が盛り込まれています。

そこで今回の認知症地域支援推進員活動ニュースでは、行方不明時に備える地域での取組について取り上げます。

地域での徘徊関連の取組は、主につぎの 3 つの取組が組み合わさりながら、進められています。



では実際に、地域で行われている取組の概要を見てみましょう。

地域で実施された徘徊関連の取組（平成 26 年 4 月～平成 26 年 12 月 認知症地域支援推進員調べ）

区・支所単位で…

- ◇ 北区・上京区：「北区・上京区認知症サポートネットワーク」（前号 Vol.4 で紹介）で、ケアマネジャーへのアンケートと聴き取りにより徘徊とその対応についての実態把握を行う「おでかけ安心事業」を実施。26 年度は事例集を発行し、ゆくゆくは行方不明事故の予防対策の研究を進める予定。
- ◇ 北 区：包括社会福祉士部会を中心に、行方不明者の検索をスムーズに行うためのしくみである「北区高齢者検索ネットワーク」を立ち上げ、規定やフローチャート等を整備。
- ◇ 上京区：地域包括支援センターが中心となり、行方不明時の対応方法をまとめたフローチャートを作成。
- ◇ 左京区：地域包括支援センター・警察署・交通機関・福祉事務所等を構成団体として SOS ネットワークの再構築を目的とした会議を開始。（京都バスの協力による徘徊模擬訓練も実施。）
- ◇ 中京区：地域包括支援センター・地区医師会・福祉事務所等の関係機関で構成される「中京区認知症連携の会」で、徘徊模擬訓練実施に向けて勉強会を実施。
- ◇ 南 区：地域包括支援センターや介護保険事業所を中心とした「南区認知症サポートネットワーク」で、行方不明時の対応方法をまとめた「みなサボそうさくネットマニュアル」を作成。
- ◇ 西京区・西宮市：地域包括支援センター・地区医師会・警察署・消防署・区社会福祉協議会・福祉事務所で構成される「西京区徘徊安心ネットワーク検討会」で検索や啓発の方法について協議。

包括の担当地域で…

- ◇ 原谷包括圏域（北区）：「原谷圏域サービス事業所会議」で、行方不明者情報を介護サービス事業所に発信する情報伝達訓練や徘徊模擬訓練等を実施。
- ◇ 静市・鞍馬学区（市原包括圏域／左京区）：徘徊模擬訓練の実施や、事前登録制の検索ネットワークを運営。
⇒ 詳細は 2～3 ページをご参照ください！！
- ◇ 岩倉包括圏域（左京区）：「岩倉学区徘徊 SOS ネットワーク」で、事前登録制の検索ネットワークを運営。また地域ケア会議の認知症部会で、徘徊模擬訓練を企画・実施。
- ◇ 梅津・西院・葛野包括圏域（右京区）：3 つの包括圏域合同で、「認知症の方への合同声かけ模擬訓練」を実施。

※上記の他にも、取組が行われている地域があります。

こんなふうに取り組んできました — 静市・鞍馬学区（左京区）での取組から

前ページでご紹介したとおり、地域では徘徊対応についての様々な取組が行われています。またこれから取組を始めようとしている地域もあります。では、徘徊関連の取組はどのようなきっかけで始まり、どんなふうに進められているのでしょうか。

高齢サポート・市原（左京区）の担当地域である静市・鞍馬学区では、「静市・鞍馬学区徘徊ネットワーク会議」として、地域住民と一緒に徘徊模擬訓練をはじめとした取組が行われています。そんな「静市・鞍馬学区徘徊ネットワーク会議」で今まで行われてきたことや、これから行いたいこと等について、高齢サポート・市原の山本センター長と社会福祉士の細野さんにお伺いしました。

スタート！！

徘徊模擬訓練実施に向けての準備会の立ち上げ（平成24年10月）

岩倉包括圏域での徘徊模擬訓練実施を受け、徘徊模擬訓練実施に向けての準備会が発足しました。民生児童委員協議会・学区社会福祉協議会・圏域内の介護サービス事業所からメンバーが集まり、地域ケア会議として会議が持たれています。

なぜ静市・鞍馬学区から取組を始めようと思われたのですか？

高齢サポート・市原の担当圏域の中で、早くから学区社会福祉協議会等の地域住民により見守り活動が行われていた地域でした。圏域内に介護施設や病院が多数あるということからも、住民の理解が得やすい土壤があると思われたため、まずはここからと考えました。

第2回徘徊模擬訓練開催（平成25年11月16日）

第2回は、「声かけ研修」と「声かけ訓練」が同じ日に行われました。

「声かけ訓練」の際には、徘徊ネットワークの登録者に訓練開始の旨のメールが送信されました。



第1回は約50人だった参加者は、第2回では100人になりました。

第3回徘徊模擬訓練開催（平成26年11月1日・30日）

今まで行われてきた「声かけ研修」と「声かけ訓練」に加え、様々な方法を用いて行方不明者を検索する「要援護者検索訓練」が初めて行われました。

11月1日（土）声かけ訓練

認知症の人と家族の会の世話人さんによる講話や、施設職員さんによる寸劇等により、認知症の人への接し方を学んだ後に声かけ訓練が行われました。



当日はあいにくのお天気だったため、体育館の中で声かけ訓練を行いました。

11月30日（日）要援護者検索訓練

徘徊ネットワークのメール送信の情報を基に検索をするグループ、GPS端末を持った行方不明者をタブレットで検索するグループ、警察犬がにおいをたどって検索するグループに分かれて、行方不明者の検索訓練が行われました。



第1回徘徊模擬訓練開催（平成25年3月14日）



南北に長い地域を2つのエリアに分け、徘徊者役がそれぞれのエリアで事前に広報したルートを巡り、参加者は、徘徊者役に出会ったときに適切な声かけをする「声かけ訓練」が行われました。

また事前に、徘徊模擬訓練参加予定者を対象として、徘徊模擬訓練の目的や認知症の人への接し方を学び、声かけの練習をする「声かけ研修」が2日間にわたって行われました。

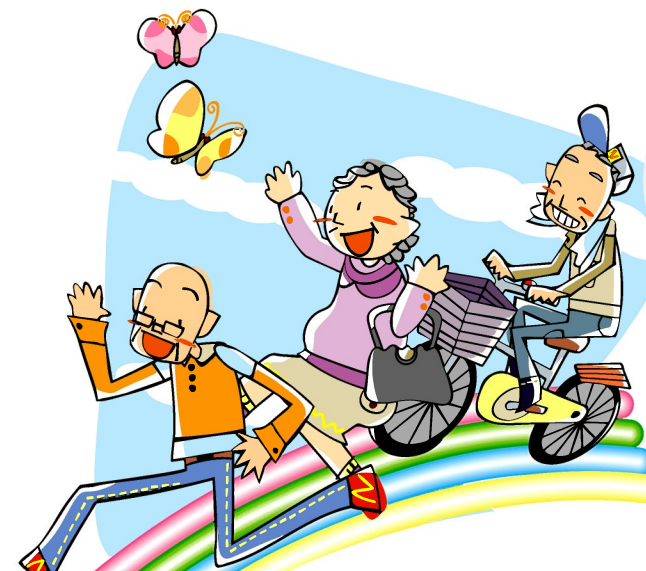
「取組をたくさんの地域住民に知ってほしいし、参加してほしい」との思いから、自治連合会・PTA・女性会・消防団にも参加を呼びかけました。

「声かけ研修」は認知症あんしんサポーター養成講座として行っています。



静市・鞍馬学区徘徊ネットワークの運用開始（平成25年3月）

第1回徘徊模擬訓練の開催をきっかけに、高齢サポートが事務局となり「要援護者（行方不明の恐れがある高齢者）」と「搜索協力者（行方不明が発生したときに協力できる地域住民）」の登録を募って、行方不明時に備える「静市・鞍馬学区徘徊ネットワーク」が始まりました。



ゴール！！

「認知症の人でも安心して外出できる＝認知症になっても暮らし続けられる」地域へ…

そして今後は…？

圏域内のほかの地域での取組実施

担当地域である下鴨学区等の市街地にも取組を広げていきたいと思っています。

他の高齢サポートと合同での取組実施

徘徊は小さな地域だけで解決できる課題ではありませんので、他の高齢サポートと一緒に取り組めることも考えていきたいです。

数か月前に他の高齢サポートの圏域にある病院で入院中の人が行方不明となり、静市学区で発見される事例が実際にありました。

シリーズ『地域でつながって支える』～① 京都市老人福祉施設協議会(市老協)編～

認知症の人をはじめ、高齢者の暮らしを支えるネットワークの連携先は、地域はもとより市域にもいろいろとあります。そこで「地域でつながって支える」と題して、連携先となりうる組織をご紹介していきたいと思います。第1回の今回は「京都市老人福祉施設協議会(市老協)」を取り上げます。

「市老協」といえば、包括運営協議会の委員として各区の代表が出席されていること等で、皆さんにも聞き馴染みのある名前であると思いますが、どんな組織で、どのようにつながっているのか……事務局長の堀池克彦さんにお話を伺いました。



そもそも「市老協」とは、どんな組織ですか？

＜会員・構成員について＞

京都市内で社会福祉法人が運営する入所施設(特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウスなど)を会員とする一般社団法人で、平成27年1月現在103施設が加入しており、会員施設に併設されているデイサービスセンターや居宅介護支援事業所などの職員も一体となって、サービスの質の向上などを目指して様々な活動を行っています。

また、会員施設を運営している社会福祉法人が、京都市の委託により45箇所の地域包括支援センターを運営しており、市老協の事務局が包括協(京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会)の事務局も担っています。



＜行っていること＞

市民向けには、「介護の日記念事業」として、11月11日が介護の日であることや、介護の大切さを広報・啓発するために、「記念フォーラム」と「施設見学会」を毎年開催しています(左の写真は、平成26年度の「介護の日記念フォーラム」のチラシ)。また、各会員施設に所属する職員の資質向上を目的として、各委員会や部会が中心となり研修等の取組が企画されています。認知症をテーマにした取組は、施設ケア委員会や地域ケア委員会の各部会が積極的に行っています。

地域に向けての取組としては、26年10月1日に、市社会福祉協議会と「社会福祉施設の地域貢献・社会貢献の促進に関する協定」を締結しました。これは施設の持っているさまざまな資源を活用することで、施設と地域が相互に連携して「災害に強い福祉のコミュニティづくり」を目指すものです。具体的には、自治会の集会時に施設の会議室を利用することや、施設職員が地域住民向けの勉強会で講師を務めること等、これまでは一部の施設の自主的な取組だった「地域とのつながり」が、たくさんの地域で活発に行われるようにと考えています。

「認知症の人を地域で支える」ことについて、連携ができそうなことはありますか？

徘徊による行方不明については、施設利用者にも起こりうることであり、他人事ではありません。地域で行方不明事案が発生したときに、入所施設職員も加わって捜索をする、そして施設利用者が行方不明になったときには、地域の協力をお願いすることができるといった、相互の連携が図れるようになればいいと思っています。そのためにも、地域に向けた活動をもっとすすめていきたいと考えています。

編集後記

徘徊関連の取組の振り返りや今後の方針を考えるために開催された地域ケア会議に伺った時のこと、「いかにして捜索訓練・声かけ訓練を広めていくか」というお題でのグループディスカッション後に「参加者に豪華景品をプレゼント」「行方不明者役として有名人を呼んでサプライズ」という斬新な(?)アイデアを発表する方がいらっしゃいました。深刻な課題だからこそ、柔軟な発想で明るく取り組むことが必要なのかもしれませんね。

さて、「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る…」と他の時期よりもさらに早く日々が過ぎていくように感じられるこの時期ですが、それに抗うかのように今年度中にあともう1回、認知症地域支援推進員活動ニュースを発行する予定ですので、どうぞ楽しみに！！

(ま)